

1 沿革と概況

1-1 まちの歴史

古代

- BC 5000～4000 南高野貝塚が形成される。この頃の生活の遺跡が市内各地に現存している。
- AD 713 常陸国風土記が編集される。密筑（水木）、助川、賀毗礼、仏の浜などに関する記事がその中にみられる。

中世・近世

- 1131 新羅三郎義光の孫、昌義が佐竹に土着永住して佐竹氏を称し以来400年間常陸国を統治する。
- 1575 この頃、佐竹氏、宮田の赤沢鋤床を掘る。
- 1602 佐竹氏秋田へ移封される。
- 1609 日立地方、水戸藩領となる。
- 1625 赤沢鋤床で銅が採掘される。なお、この頃の産業活動として金採掘、寒水石、砥石の産出を始め、鯉漁や製塩が行われる。
- 1645 この頃から水戸藩の海防政策が実施にうつされ、日立地方にも異国船番所や海防陣屋などが次々と設置される。
- 1669 徳川光圀、大雄院の再興を図る。
- 1836 徳川斉昭、家老山野辺義観を海防総司に任じ、尊攘運動の一環として助川に城堡を築かせる。
- 1839 水戸藩郷校暇修館が開かれる。
- 1864 水戸藩内天狗諸生の党争に日立地方の同志も多く参加し、その戦乱によって助川城堡が陥落する。

近代

- 1871 (明治 4年) 廃藩置県により、日立地方は茨城県の管轄となる。
- 1883 (〃 16年) 天童山大雄院が焼失する。
- 1889 (〃 22年) 町村合併が実施され、日立地方に2町10村ができる。
多賀郡日立村ができる。
- 1897 (〃 30年) 常磐線助川駅が開駅する。
- 1905 (〃 38年) 久原房之助が赤沢銅山を日立鋤山として創業する。
- 1910 (〃 43年) 小平浪平が日立製作所を設立する。
- 1924 (大正13年) 日立電線株式会社の前身である電線工場が、日立製作所によって設立される。
多賀郡日立村が多賀郡日立町になる。
- 1939 (昭和14年) 日立町と助川町が合併して日立市となる。
- 1940 (〃 15年) 市の紋章を制定する。
- 1944 (〃 19年) 人口9万余を数える県下最大の都市となる。
- 1945 (〃 20年) 終戦直前、爆撃、艦砲射撃、焼夷弾攻撃など相次ぐ戦災により、全市の約7割が灰となる。

現代

- 1946 (昭和21年) 日立市戦災復興事業に着手する。
- 1948 (〃 23年) 日立水道株式会社が市営となる。
かみね公園の整備に着手する。
- 1949 (〃 24年) 日立市民の歌を制定する。
- 1955 (〃 30年) 日立市に多賀町、日高村、久慈町、中里村、坂本村、東小沢村が編入合併し、新日立市が誕生する。
- 1956 (〃 31年) 豊浦町が編入合併する。

2 沿革と概況

- 1957 (〃 32年) 日立市を中核とする7市2町2村が東京通産局から常陸工業地帯に指定される。
日立港の起工式が行われる。
- 1960 (〃 35年) 日立港後背地2, 145, 000平方メートルが、土地区画整理事業区域として建設大臣の認可を受ける。
- 1962 (〃 37年) 交通安全都市の宣言をする。
「記念図書館」開設する。
- 1965 (〃 40年) 日立港背地第二次開発計画に着手する。
「日立市民会館」開設する。
群馬県桐生市と国内親善都市提携を宣言する。
- 1967 (〃 42年) 日立港が開港し、重要港湾に指定される。
- 1969 (〃 44年) 公共下水道事業に着手する。
- 1970 (〃 45年) 重度心身障害児のための施設「太陽の家」開設する。
- 1975 (〃 50年) 特別養護老人ホーム「日立市萬春園」開園する。
「日立市郷土博物館」開設する。
- 1977 (〃 52年) 市の花「サクラ」、市の木「ケヤキ」を制定する。
- 1978 (〃 53年) 心身障害者スポーツセンターと福祉作業所を開設する。
- 1980 (〃 55年) 常磐自動車道の日立トンネル(2.4km) 工事着手する。
「清掃センター」稼動する。
- 1981 (〃 56年) 「教育会館」開設する。
日立鉱山閉山する。
公設地方卸売市場を開設する。
- 1982 (〃 57年) アメリカ合衆国アラバマ州バーミングハム市と姉妹都市を提携する。
知的障害者更生施設「日立市大みかけやき荘」開設する。
- 1983 (〃 58年) 日立銀座モールが完成する。
余熱利用施設として日立市民プールを開設する。
- 1985 (〃 60年) 常磐自動車道が日立北インターチェンジまで開通する。
日立共同福祉施設「ホリゾンかみね」開設する。
核兵器廃絶・平和都市宣言をする。
- 1986 (〃 61年) バーミングハム市から市のシンボルである「バルカン像」が贈られる。
- 1987 (〃 62年) 茨城厚生年金健康福祉センター「サンピア日立」開設する。
- 1988 (〃 63年) ニュージーランド国タウランガ市と姉妹都市を提携する。
- 1989 (平成元年) 市制施行50周年
市の鳥「ウミウ」を制定する。
- 1990 (〃 2年) 「日立新都市広場」開設する。(愛称パティオ日立)
「日立シビックセンター」開設する。
- 1991 (〃 3年) 助川町の山林火災で、約217ヘクタールの林野が焼失する。
- 1993 (〃 5年) 大煙突が崩壊する。
日立中央インターチェンジが開通する。
- 1994 (〃 6年) 「奥日立きららの里」開設する。
- 1995 (〃 7年) 戦後50周年を記念して、平和の鐘が日立駅前広場に建てられる。
日立北部工業団地が完成する。
- 1996 (〃 8年) 「新修日立市史」(上・下巻)を刊行する。
南極観測船しらせが日立港に寄港する。
- 1997 (〃 9年) 「教育プラザ」開設する。
- 1999 (〃 11年) 「旧共楽館」が登録有形文化財として登録される。

- 「日立地区産業支援センター」開設する。
- 2000 (// 12年) 複合老人福祉施設「かねはた」開設する。
「日立市保健センター」開設する。
- 2001 (// 13年) 第13回さくらサミットINひたち開催される。
国道6号日立バイパス(田尻・河原子線)開通する。
新ごみ処理施設「エコクリーンかみね」稼動する。
- 2002 (// 14年) ごみ収集の有料化(指定ごみ袋・ごみ処理券)がスタートする。
日立港で北朝鮮船籍チルソン号が座礁する。
- 2003 (// 15年) 市のさかな「さくらダコ」を制定する。
県道日立東海線が開通する。
「金砂大田楽」が公開される。
- 2004 (// 16年) 「久慈川日立南交流センター」開設する。
「吉田正音楽記念館」開設する。
山形県東村山郡山辺町との友好都市提携調印式が行われる。
十王町との合併協定調印式が執り行われる。
日立市に多賀郡十王町が編入合併し、新日立市が誕生する。
- 2005 (// 17年) 日立電鉄線が廃止される。
環境都市宣言をする。
ケーブルテレビ局が開局する。
- 2006 (// 18年) 「多賀市民プラザ」開設する。
子育て支援施設「子どもすくすくセンター」開設する。
「茨城県県北生涯学習センター」開設する。
- 2007 (// 19年) 日立市のイメージマーク、キャッチコピー及びイメージカラーを制定する。
かみね動物園が開園50周年を迎える。
「河原子北浜スポーツ広場」開設する。
- 2008 (// 20年) 「消防拠点施設」開設する。
「十王交流センター」開設する。
- 2009 (// 21年) 「たかはら自然体験交流施設」開設する。
- 2010 (// 22年) 「全国鶏飼サミット日立大会」が開催される。
- 2011 (// 23年) 「東日本大震災発生」日立市は震度6強
3月11日(金)午後2時46分東北・三陸沖を震源とする国内観測史上最大(マグニチュード9.0)の極めて強い地震が起こる。
「日立駅自由通路及び橋上駅舎」開設する。
- 2012 (// 24年) 「常陸多賀駅前広場」リニューアルされる。
「日立駅情報交流プラザ」開設する。
- 2013 (// 25年) 「ひたちBRT(新交通)」が運行開始する。
「山側道路」全面開通する。
「南部図書館」開設する。
- 2014 (// 26年) 「日立おさかなセンター」が道の駅に認定される。
十王町との合併10周年を迎える。
- 2015 (// 27年) 「子どもセンター」開設する。
- 2016 (// 28年) 「多賀消防署新庁舎」開設する。
- 2017 (// 29年) 「池の川さくらアリーナ」開設する。
「日立市役所新庁舎」開設する。
- 2018 (// 30年) 「ひたちBRT第Ⅱ期区間(一部暫定)」開通する。

4 沿革と概況

- 2019 (令和元年) 「鳩が丘さくら福祉センター」開設する。
茨城県で国民体育大会が開催され、天皇・皇后両陛下が日立市に行幸啓になる。
- 2020 (// 2年) 「南部消防署」開設する。
- 2021 (// 3年) 「日立シビックセンター科学館」がリニューアルオープンする。
日立総合病院の「地域周産期母子医療センター」が12年ぶりに再開する。
- 2022 (// 4年) 「久慈サンピア日立」がリニューアルオープンする。
かみね動物園新猛獣舎が完成する。
- 2023 (// 5年) 日立駅前大型商業施設「ヒタチエ」がリニューアルオープンする。
「会瀬スポーツ広場」開設する。